

# ~ 四万十ドラマのものづくり・人づくり ~

## 特徴・ポイント

- ・ぶれないコンセプト「四万十川に負担をかけないものづくり」
- ・「背景」「取り組み」「生産者」に物語性のある商品開発
- ・畦地氏のリーダーシップと農・商・工・官・マスコミとのネットワーク

## 事業概要

四万十川、及び、四万十川流域にある素材を活用した事業に取り組む。主な事業としては、四万十川に負担をかけないものづくりをコンセプトとした産物販売・商品開発、ネットワーク会員制度【RIVER】、四万十川を体験する「自然の学校」、出版「水」、道の駅「四万十とおわ」の運営があり、これら事業を通じた地域おこし・人材育成にも取り組んでいる。

## 四万十川から人の生き方を考える

「全ては人との出会い」と畦地さんは言う。農協職員だった頃に出会ったデザイナーに、「今、ここにあるいいものを見ていない」と指摘された。その方経由でいるんな人と出会った。高知にいながらグローバルなことをやっている人。とことん地域を楽しんでいる人。世界観の違うものを見たら、「こらいかな」と思った。その頃、四万十川中流域の3町村が共同出資する第三セクターの四万十ドラマを知る。様々な商品開発や人材育成など、全てをゼロから楽しみながらできそうだと思い畦地さんは社員となる。

四万十ドラマの最初の転機は「四万十ひのき風呂」と「水の本」。ひのき風呂は廃材を使った二次加工品。単純なローテク商品だったが、1発目から12万枚売れた。もの考え方、つまり、「環境・ローテク・手作り」が価値を生むことがわかった。水の本の企画には1年かけた。水というのは人の生き方の重要な部分。水の大切さを、水というテーマで、時代をとらえていると思う方に原稿をお願いした。ネットワークは全くない。「四万十川から人の生き方をちゃんと考えたい」。そんな手紙を書き50人に出し、そのうち18人の方に書いていただいた。最初に原稿がきたのはイラストレーターの黒田征太郎さん。原画が来た。岡林信彦さんの原稿はFAXでカタカタとやって来た。そういう方たちの考えている方向がわかった。誰もできなかった事をやっている感覚があった。水の本が四万十ドラマの教科書と畦地さんは言う。

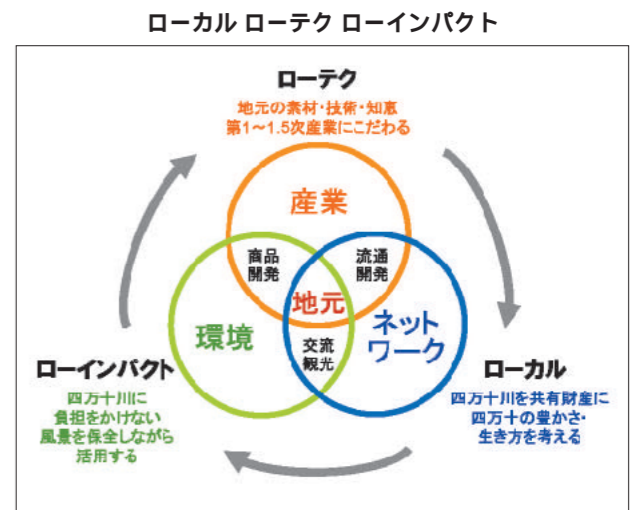


四万十ひのき風呂

## 四万十川に負担をかけないものづくり

四万十川に負担をかけないものづくり。四万十川の商品は新聞紙で包むのが四万十川らしい。ビニール袋の削減にもなる。そうして生まれたのが「四万十川新聞バッグ」である。究極のエコバッグとしてニュースでも取り上げられた。

## 物語性のある商品開発



四万十川は大きなブランド。四万十川という名前をつけて商品開発している会社は多いが本物はあるのか？「背景」「取組」「生産者」に物語がなくてはならないのではないか？商品売るときは必ず企画書を作り、背景を語れ、と畦地さんは言う。「ぼくらは生産者と繋がっていることが強み。これが今でも考え方の基になっている」

背景を持つ商品の代表が「四万十のお茶」と「四万十の栗」だ。

お茶は静岡に卸すのではなく、「四万十のお茶」として売る。広井茶生産組合とタイアップし、なるべく農薬も減らしていこうと考えた。生産農家60人中20~30人位が今では農薬もかけなくなった。栗もしかり。ピーク時は年間500~600トン。それが10分の1に落ち込んでいる。しかし、四万十の栗は大きくて甘いと評価が高い。今後、また、100トンに再生しようという動きがある。「栽培体制を作らないといけないうっている」と畦地さんは言う。

## 大きくなったら四万十ドラマで働きたい

平成19年から道の駅の指定管理者となる。道の駅の運営にあたっては、10人中9人から止めておけと言われてたそう。リサーチでは大赤字だったからだ。しかし、畦地さんは、「『見せる場』を持って、人の雇用ができる。若者に『地域に帰って来たい』と思わせる核となる施設だ。我々にとって最後のチャンス』と思ったという。コンセプトは「ここしかないもの」。四万十川の景観が見られるように建物の建築にあたって意見も言った。オープンまでの2年をかけてオリジナル商品20数点を開発。オープン初日には2、3キロの渋滞ができたという。リサーチでは年間6万人前後だった来客数が初年度で12万人。次年度は15万人に達した。道の駅事業部には、地元の人はもちろん、1ターン人材を採用し、外からの視点を入れた。道の駅はもうまわる。

今後は生産にも取り組みたい。自ら作り、それを売る仕組みを作りたい。四万十川という名前を使うからには四万十川に失礼のないように、ちゃんとしたものを作っていきたい。

今後は「大きくなったら四万十ドラマで働きたい」という若者を作りたい」と畦地さんは言う。

団体名：株式会社 四万十ドラマ  
代表取締役 畦地 履正  
住 所：高知県高岡郡四万十町  
HPアドレス：http://www.shimanto-tennen.com